

式辞

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、入学後、勉学に励まれ、研鑽を積まれて、それぞれ、学士、修士、博士の学位を取得されました。神奈川大学の教職員を代表して、心からお祝いを申し上げます。また、本日は、御父母の皆様、関係者の皆様にも多数ご列席いただいております。今日まで、長年にわたり、守り育て、支えてこられたご労苦に対して、深い敬意とともに、心よりの感謝を申し上げます。なお、本日は、本学にとって平成の御代の最後の卒業式となります。みな様とともに、この特別な日となる卒業式をお祝いできますことを、あらためて心から喜びたいと思います。

本日、皆さんは、卒業されるわけですが、神奈川大学の卒業生は、すでに22万人を超えており、この数字は、数ある日本の四年制大学のなかで10数位に位置づけられ、伝統を誇る総合大学だからこそその卒業生数とされています。また、本学の卒業生組織である宮陵会は、全国に地区組織を持つほか、ロサンゼルス、上海、バンコクなどの海外主要都市でも組織化されております。卒業生は、国内外で活躍されており、なかには、昭和40年に第二法経学部貿易学科をご卒業され、翌年の昭和41年にブラジルに渡り、以来、ブラジルヤクルト商工株式会社の代表やブラジル商工会議所の会頭を長年にわたり務められるなど、生涯をかけて日伯経済協力と友好親善にご尽力された貞方賢彦氏などもおられます。また、あの東日本大震災に見舞われた際の福島県の知事として、県民の命と生活を守るためにまさに想像を絶する激務をこなされた佐藤雄平氏も、本学経済学部経済学科を昭和45年にご卒業されました。諸君らは、今後、これらの諸先輩とともに本学卒業生の会である宮陵会の一員として名を連ねることになります。世界に広がる宮陵会のネットワークを活用してください。

なお、皆さんが本学に戻られたときに、憩いの場所ともなる「宮陵会館」が今月中に六角橋のキャンパスに竣工いたします。ベビールームなども併設してありますので、本学に戻られたときには、是非ご利用ください。また、ここみなとみらいの中央地区に高層ビル型の新キャンパスが、2021年に開学する予定です。未来社会を先導する本学の動向にご期待ください。

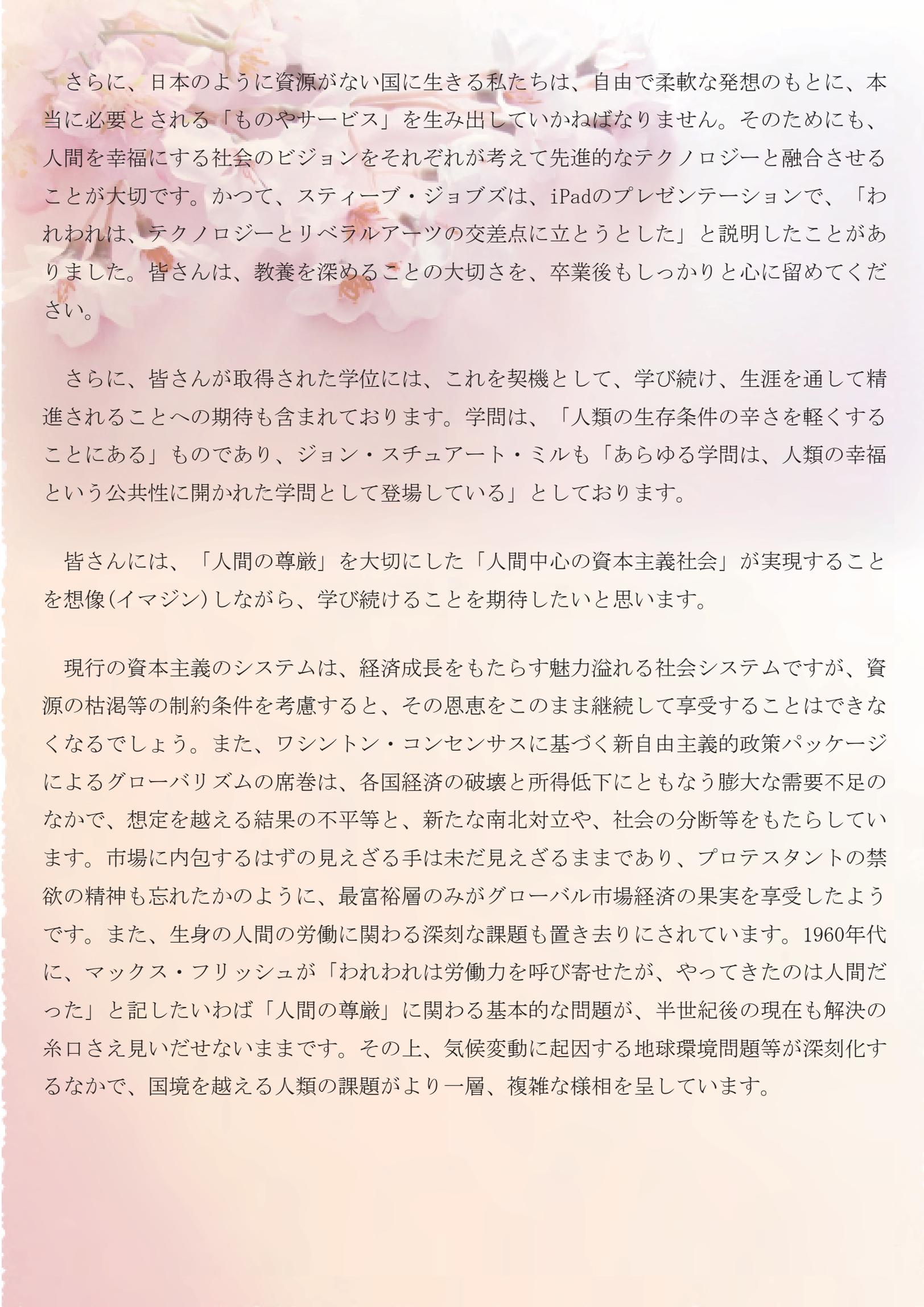
さて、皆さんが学ばれた神奈川大学とは、いかなる学び舎であったのでしょうか。近年、大学の評価は、第三者機関による世界の基準に則して示されるようになっていきます。たとえば、昨年秋にイギリスの高等教育情報誌である、タイムズ・ハイヤー・エデュケーションが発表した「T.H.E.世界大学ランキング2019」に、本学が世界の上位5%内の大学として改めて掲載されました。このことは、本学が世界有数の大学の1つであることを意味しております。この高い評価の根底には、本学の研究力と教育力の高さがあります。大学の評価は、世界の基準では、入試の偏差値などではなく、社会に貢献できる研究力と教育力にあるのです。皆さんも、このことを良く理解するようにしてください。

本学は、創立者の米田吉盛先生が「人は実業家や学者、官僚である前に、まず人間であれ」と説いて以来、卓越した研究を推進するとともに、学問による「人づくり」に努めてまいりました。

皆さんは、日々の学問、すなわち、学びて問うことを通して、生涯の糧となる、自ら考える力を培うとともに、それぞれの専門領域における、未来社会を担う知見を深めてこられました。加えて本学では、学則の第1条に明記してあるように、全学的に「教養教育」に力を入れてまいりました。

液状化が進み混迷を極める不確実な資本主義社会に対する新しいビジョンは、教養ある、想像力豊かな人間から生まれるものと思います。哲学、宗教、歴史、文学、芸術等を学ぶことで、自らの血肉にする知見は、専門的学問探究が陥りがちな狭い見や、行き詰まりを超越して、知識の体系化に結びつける力を持つものであり、国連が採択したSDGsが目指す安定した持続可能な社会システムや「人間中心の資本主義社会」にたどり着くために必要な見識でもあります。

また、自らの専門的知識と能力を、どう使うのか、誰がために、何のために使うのかを方向付けるのが、その人の教養といえます。例えば、高い専門性を持つ弁護士の資格を得たときに、弁護士としての専門知識と能力を、社会に貢献するために使うのか、そうでないのかは、その人の教養に依存します。

A background image of pink cherry blossoms in full bloom, with soft, out-of-focus petals and green stems. The blossoms are scattered across the page, creating a delicate and natural aesthetic.

さらに、日本のように資源がない国に生きる私たちは、自由で柔軟な発想のもとに、本当に必要とされる「ものやサービス」を生み出していかなければなりません。そのためにも、人間を幸福にする社会のビジョンをそれぞれが考えて先進的なテクノロジーと融合させることが大切です。かつて、スティーブ・ジョブズは、iPadのプレゼンテーションで、「われわれは、テクノロジーとリベラルアーツの交差点に立とうとした」と説明したことがありました。皆さんは、教養を深めることの大切さを、卒業後もしっかりと心に留めてください。

さらに、皆さんが取得された学位には、これを契機として、学び続け、生涯を通して精進されることへの期待も含まれております。学問は、「人類の生存条件の辛さを軽くすることにある」ものであり、ジョン・スチュアート・ミルも「あらゆる学問は、人類の幸福という公共性にかかれた学問として登場している」としております。

皆さんには、「人間の尊厳」を大切にした「人間中心の資本主義社会」が実現することを想像(イマジン)しながら、学び続けることを期待したいと思います。

現行の資本主義のシステムは、経済成長をもたらす魅力溢れる社会システムですが、資源の枯渇等の制約条件を考慮すると、その恩恵をこのまま継続して享受することはできなくなるでしょう。また、ワシントン・コンセンサスに基づく新自由主義的政策パッケージによるグローバリズムの席卷は、各国経済の破壊と所得低下にともなう膨大な需要不足のなかで、想定を越える結果の不平等と、新たな南北対立や、社会の分断等をもたらしています。市場に内包するはずの見えざる手は未だ見えざるままであり、プロテスタントの禁欲の精神も忘れたかのように、最富裕層のみがグローバル市場経済の果実を享受したようです。また、生身の人間の労働に関わる深刻な課題も置き去りにされています。1960年代に、マックス・フリッシュが「われわれは労働力を呼び寄せたが、やってきたのは人間だった」と記したいわば「人間の尊厳」に関わる基本的な問題が、半世紀後の現在も解決の糸口さえ見いだせないままです。その上、気候変動に起因する地球環境問題等が深刻化するなかで、国境を越える人類の課題がより一層、複雑な様相を呈しています。

とはいえ、これらの深刻な課題に対して、国際社会は、気候変動に対応したパリ協定の採択はじめ、国連の持続可能な開発目標SDGsの採択、そして、投資市場におけるESG評価の拡大など、未来社会を見据えた動きも進んでおります。ESG評価は、地球環境と「人間の尊厳」に配慮した取り組みを、投資先の企業に求めるものです。皆さんが勤務する会社においても、脱炭素をはじめ取引先の人権への配慮を確認するなど国際社会が求める標準的な責務がますます問われることになるでしょう。

さらに、近年のIoT、AI、ロボットを中心とした先端技術の急速な進展は、産業構造の転換のみならずパラダイム転換を伴う資本主義社会の大きな変容をもたらすことが想定されております。皆さんが提供する労働に対しても、質的な転換とともに新しい労働の価値を生み出すことが求められるなど、大変厳しい現実にも直面することも覚悟しなければなりません。

資本主義社会の未来は、実は、誰にも分からない、不確実で予測不可能なものです。とはいえ、今や世界標準とされるSDGsやESG評価などに真剣に向き合うとともに、人種、民族、宗教を超えて、多様な価値観を理解し、寛容な心で、人類が共生する持続可能な社会を創生する人材、すなわち、新たな「人間中心の資本主義社会」を創生する人材は、「人間の尊厳」を大切にしたい、自ら考える力を備えた、教養あふれる、神奈川大学の卒業生から生まれるものと信じます。

最後になりますが、「人をつくる」大学である神奈川大学で学んだことを誇りに、実社会においても学ぶ姿勢を忘れず、より良き社会の実現に皆さんなりに貢献されることを期待しています。そして、皆さん一人ひとりが「尊厳ある人間」であること、未来を担う「社会の財産」でもあることをも自覚して、健康に心がけて、皆さんの人生がより良いものになりますよう心より祈念して私からの式辞といたします。

平成31年3月19日
神奈川大学長 兼子良夫